

製品名: COP1 (リン酸化 Ser387) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04487**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	RFWD2
別名	RFWD2; COP1; RNF200; E3 ubiquitin-protein ligase RFWD2; Constitutive photomorphogenesis protein 1 homolog; hCOP1; RING finger and WD repeat domain protein 2; RING finger protein 200
遺伝子 ID	64326.0
SwissProt ID	Q8NHY2
免疫原	抗血清は、ヒト RFWD2 の Ser387 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 353-402

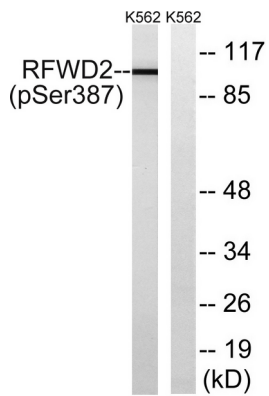
背景

ドメイン:RING フィンガードメインは、ユビキチン化における役割に加えて、2つの正電荷残基クラスターを空間的に近接させ、二分核局在シグナル (NLS) を模倣する構造的足場として機能します。機能:E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介します。E3 ユビキチンリガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、その後、ユビキチンを標的基質に直接転送します。JUN のユビキチン化と分解に関与します。p53 (TP53) のユビキチン化と分解に直接関与し、それによって p53 依存性転写とアポトーシスを除去します。MDM2 または RCHY1 とは独立して p53 をユビキチン化します。おそらく、より大きな E3 複合体の必須 RING ドメインサブユニットとして機能し、E3 ユビキチンリガーゼ活性を媒介する。一方、DCX DET1-COP1 複合体において、このタンパク質は JUN を負に制御する触媒 RING サブユニットを構成しない。このユビキチンリガーゼ活性は RBX1 によって媒介される。誘導: p53/TP53 による。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性: COP1 ファミリーに属する。類似性: RING 型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: WD リピートを7つ含む。細胞内局在: 核内では核スペckルを形成する。サブユニット: ホモ二量体。ホモ二量体化はコイルドコイルドメインによって媒介される。DCX DET1-COP1 ユビキチンリガーゼ複合体の構成要素であり、少なくとも RBX1、DET1、DDB1、CUL4A、および COP1 から構成されています。アイソフォーム 2 は CUL4A とは相互作用しませんが、RBX1 には結合するため、この相互作用は別の Cullin タンパク質によって媒介されている可能性が示唆されます。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 は CUL5 と相互作用しますが、CUL1 とは相互作用しません。CUL2 は CUL3 とは相互作用しません。bZIP 転写因子 JUN、JUNB、および JUNB と相互作用しますが、FOS、ATF2、および XBP1 とは相互作用しません。p53 (TP53) と相互作用します。組織特異性: 低レベルで普遍的に発現しています。精巣、胎盤、骨格筋、心臓で高レベルで発現しています。ドメイン:RING フィンガードメインは、ユビキチン化における役割に加えて、2つの正電荷残基のクラスターを空間的に近接させ、二分核局在シグナル (NLS) を模倣するための構造的足場として機能します。機能:E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介します。E3 ユビキチンリガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、その後、そのユビキチンを標的基質に直接転送します。JUN のユビキチン化と分解に関与します。p53 (TP53) のユビキチン化と分解に直接関与し、それによって p53 依存性転写とアポトーシスを除去します。MDM2 または RCHY1 とは独立して p53 をユビキチン化する。おそらく、より大きな E3 複合体の必須 RING ドメインサブユニットとして機能し、E3 ユビキチンリガーゼ活性を媒介する。一方、DCX DET1-COP1 複合体において、このタンパク質は触媒 RING サブユニットを構成しておらず、この複合体は JUN を負に制御する。このユビキチンリガーゼ活性は RBX1 によって媒介される。誘導: p53/TP53 による。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性: COP1 ファミリーに属する。類似性: RING 型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: WD リピートを7つ含む。細胞内局在: 核内では核スペckルを形成する。サブユニット: ホモ二量体。ホモ二量体化はコイルドコイルドメインによって媒介される。DCX DET1-COP1 ユビキチンリガーゼ複合体の構成要素であり、少なくとも RBX1、DET1、DDB1、CUL4A、COP1 から構成されています。アイソフォーム 2 は CUL4A とは相互作用しませんが、RBX1 には結合するため、この相互作用は別のカリタンパク質によって媒介されている可能性が示唆されます。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 は CUL5 と相互作用しますが、CUL1 とは相互作用しません。CUL2 は CUL3 とは相互作用しません。bZIP 転写因子 JUN、JUNB、JUNB と相互作用しますが、FOS、ATF2、XBP1 とは相互作用しません。p53 (TP53) と相互作用します。組織特異性: 低レベルで普遍的に発現しています。精巣、胎盤、骨格筋、心臓では高レベルで発現しています。、

研究分野

p53;ユビキチンを介したタンパク質分解;

画像データ



UV 15 処理した K562 細胞ライセートの RFWD2 (リン酸化 Ser387) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。